



## 「サツマイモ」

NPO法人ころろ

(就労継続支援B型事業所ころろ)

『NPO法人ころろ』が製造・販売するひがしやまは産直市に出品すると瞬く間に完売する人気商品です。また、中までホクホクな石焼き芋はイベントで販売すると大好評。これらに使用しているサツマイモは、全て『ころろ』で栽培されたものです。

『ころろ』が開所した平成14年からサツマイモを栽培しており、当初は『鳴門金時』を栽培していましたが、現在はひがしやま・焼き芋の両方に適した品種として『安納芋』と『安納黄金』を栽培しています。

5~6月に苗を植え付け、11月以降の収穫までの間は水やりと除草を中心に行い、ツルぼけを防いでイモの成長を促進させるため2~3回ツル返しという作業を行います。約1,000平方メートルの畑には1,000本の苗が植えられており、経費を削減するため苗を自家生産し、2月初旬から畑に隣接するビニールハウスで苗床を準備し、約3カ月かけて立派な苗に仕上げます。手間はかかりますが、「少しでも安く自慢のサツマイモを食べてもらいたい」という思いで、職員と利用者が協力して種芋から育てています。

丹精込めて栽培したサツマイモですが、新型コロナウイルスの影響で産直市での販売は激減。その状況を打開するべく、令和3年に『移動販売車ころろ』が仲間入りしました。焼き芋機を搭載しているためイベント等での出張販売が可能となり、毎回多くの方が列を作ります。また、『ころろ』利用者の方が対面で接客をする機会の創出にもつながり、移動販売ならではの喜びもあります。焼き芋と言えば秋冬のイメージですが『冷やし焼き芋』も話題となっているため、商品化することで移動販売車の通年稼働も視野に入れていきます。

今後の取り組みについて職員のかつみ吉田勝実さんは、「目標は移動販売車の稼働率向上。そのために焼き芋として提供できるサイズのイモをより多く生産する必要があるため、栽培方法の改良を続けていきたい」と話しました。町内でイベントが開催される際には利用者の方と一緒に販売に向かい、要望を受けた町内の施設や地区において移動販売を実施する予定としています。『ころろ』には、サツマイモをはじめ河内晩柑やミニトマト、お米などまだまだ自慢の逸品がたくさんあります。逸品の数々を詰め込んだ移動販売車を走らすことができるよう、商品力向上に高い意欲を見せます。



▲1カ月程度貯蔵することで糖分が増したおいしい焼き芋はもはやスイーツ



▲約2週間天日干しされ、甘みがぎゅっと詰まった自慢のひがしやま



▲利用者の方が協力して苗床を準備。苗の生育を促すため地中に落ち葉・ぬかわら・石灰を入れて地温を上げる



▲機械で掘り上げられたサツマイモを利用者の方が手作業で集める